連盟活動の思い出

宮城県看護連盟　初代支部長　**久光　なみ子**
（昭和36年～昭和37年）

この度、宮城県看護連盟が創立50周年を迎えられますこと、心からお祝い申し上げます。

それにつけ、平成23年3月11日の太平洋沿岸の巨大地震により、大津波の発生に、今まで経験したことのない未曾有の惨事に遭遇し、多くの被災者を出し、かてて加えて、原発事故により住み慣れた町や村を捨てなければならない理不尽に苦しめられるという不幸な出来事に直面しなければなりません。

いまここに、多くの犠牲になられました方々に深く哀悼の意を表し、同時にこの禍に遭われました会員の皆様にお見舞いを申し上げます。

ＲＥＮＭＥＩみやぎ第62号・東日本大震災特集号を拝読させて頂き、この惨禍の真只中を、毅然として立ち向かいながら、被災地へ、被災者への支援、看護活動等々に全力を上げられましたこと、それと、看護連盟の目的とする、日本国民の健康を守り医療の推進に、会員の皆様は総力を結集して多くの効果を上げられていることを機関紙で知り感動しているところであります。50年の歴史の足跡がここにあるということを知り喜びに堪えません。

さて、宮城県看護連盟は他の各都道府県よりも大分遅れて結成されました。準備が一年程かかり、昭和37年当時、駅前の某会館で結成大会を開いたものでした。結成する前に、すでに、本協会は動き出して居りまして「ナースの声を国会へ」のスローガンを掲げて参議院議員に出馬する林塩氏を国会に送るべく、会員の保・助・看が立ちあがって、全国に檄を飛ばしたものでした。

宮城県支部看護協会も急ぎ、連盟支部の結成を見ましたが、準備もできないまま走り始めたのであります。スローガンを作り、地方会員の勧誘や趣旨の徹底のためにオルグに歩いたものでした。殊に集中的に歩いたのが、三陸沿岸の石巻、女川、志津川（現南三陸町）気仙沼と飛び回ったものでした。

私たちが血眼になって病院訪問に歩いた三陸の砂浜は、津波により跡方も無くなっているのを、テレビ放映を見ながら幾度も涙を流しました。

準備中又創立当時、一票を獲得するためには自動車もタクシーもなく、ボロボロのトラックを浜の兄さんに運転を頼み、巡って歩いた町も村も津波に流されたのです。

「私達はこのようにして患者の命を守った」の記事を読みながら、皆様の厳しい中での活動に、看護連盟の責務の重さが身に沁みるのであります。

連盟は、いま、グローバルな視野に立ち、益々活躍を期待されている看護組織であります。前途のシビアな要求を受け止めなければならないと存じますが、賢明な会員の皆様は必ず遂行するものと信じます。

尚、発足当時、多大なるご協力ご援助頂きました諸姉諸兄に、軌道に乗せるまで犬馬の労を取られました。この稿をお借り致しまして厚くお礼申し上げます。

50年の歴史の積み重ねに、新たなる業績を残されますことを祈願し益々のご発展をお祈り申し上げ、重ねて寄稿の栄誉に浴し、身に余る光栄と存じます。ありがとうございました。

平成24年1月10日　　成人の日

日本看護連盟宮城県支部新聞　昭和37年9月25日

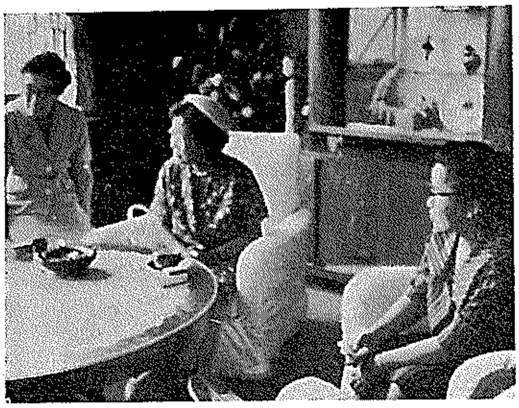
支部
連盟新聞

発行所
東北労災病院内
日本看護連盟
宮城県支部
印刷所
大日本印刷株式会社
仙台営業所

遂に目的達成！！

―51万人の支持―

当選の声を聞くや直ちに第二班支部長と協会本部に向った。林・会長は東京に帰られたばかりで、来客、新聞社と入れかわり立ちかわりの人で、協会会館内は火のついた様な、あわたゞしさで我々は、ほんの短い時間であったが、会談できた。会長は疲れた様子もなく、はりきっておられる。こゝで林会長と一問一答を記してみよう。



問　林先生おめでとう御座居ます（握手）

答　皆さん、本当に御苦労様です、御苦労様でした、当選いたしましたのも、全国の会員の皆様の努力のたまものです、永い間の活動であり当選しましても、まだ実感がわきませんが（笑）私は当選を心から喜んでおります本当にどうもありがとう御座居ました。

問　先生さっそくですが議員となられた感想を一つ

答　まだ実感はないがもう、うれしさで一ぱいです、日本看護協会も一致団結すれば、今回の様に、大きな成果が上げられるわけであります、この団結は会員の総力であり、これを永続して行く為にも、頑張って行きたい。

問　当選の予想としては？

答　予想と云うより、私はどうしても当選したかった、それは日本看護協会として大きな問題が山積しておる事は皆様も御承知のことです。たゞひたすらに当選を願っておりました。

問　議員のとなってまず第一に〳〵する事は？

答　まず私はスローガン通りにナースの声を国会に反影さ[illegible]る事であり、さし当り、一番困[illegible]ているものとしては、看護婦の人員、不足の問題ですこの問題は大きなもので私達も患者も安心して看護し又は看護を受けられる様な制度にする事でありまず

問　選挙活動中に一番苦心なさった事は？

答　何んとかして動き易い状態にしようと思い私は私なりに苦心致しました

それからこれは、いつも出る問題ですが無所属と云う立場ですが選挙には非常にむづかしいと云う事も、知っておりました、ですが私は、勤労婦人の立場を守ると云う意味（保助看と云う働く人間の代表と云う立場）で無所属を守りました。

（次の客でごったがえしてる状態なので）

問　では先生、お忙がしい様ですから最後に林、先生の健康と、これから飛躍的に発展していく、日本看護協会の中心となって頑張って下さい（本当にありがとう御座居ました。

答　宮城県の健闘、ありがとう御座居ました会員の皆様と林、塩は手を取りあって歩んで行きます。どうもありがとう御座居ました。（午後四時）

協会の玄関を出ながら、今回の活動は中央もさる事ながら、郡部の方々の絶大なる協力のもとに大きな成果が得られたと思う。この機会を元に郡部とのつながりを、絶える事なく手を取りあって行きたい。これからの協会役員の働きを大いに期待するものである。

この日本看護協会に三十万のナース職にあるものが、全員入会となる日の近い事を念じながら、帰路についた。

宣言

われわれは、新なる決意と情熱を結集に、看護のもつ、意義を、あまねく社会に訴え、その理解と協力を得て、看護を取巻く封建的諸条件を打破すると共に、身分待遇の内容を改善して近代社会に即応する公衆衛生の前進と、医療及び、看護の画期的な充実を期したい。

更に、医療及び看護あるいは疾病を予防する保健サービスが憲法第二十五条にもとずき、社会的責任において、すべての人々にわけ隔てなく行われるべきであると云う前提に立ち、完全な社会保障制度の実施と健康社会の実現を目指し且つ、その担い手となることを決意して、本日ここに日本看護連盟宮城県支部の結成を宣言する、

昭和三十七年一月二十日

ついに目的達成す

宮城県日本看護連盟支部長　久光なみ子

昨年の総会で決議されそして機関決定となりました「ナースの声を国会へ」と悲願を立てゝ今日まで熾烈な戦いをくり広げてまいりました。軍拡政策に反対し、それにつながる低医療制策を打破し、真の国民の為の医療制度、看護制度、を確立し、国民の為の国家を築かうとする私達、保健婦、助産婦、看護婦、准看護婦、看護士に、前途に横たはる幾多の困難を乗り越え、悪質なるデマ、誹謗や、官僚職権の圧迫をはね返し一致団結して、こうした攻撃と陰謀に抗して、公明選挙の大道を歩き正々堂々と必勝の決意をもって戦ってまいりました。そして、今、私達は勝利の歌を上げることが出来ましたことを皆様と共にこの喜びを分け合いたいと思います。振り返って見ますれば本年一月二十日連盟が結成され、弱体ながらも会員の一〇〇%獲得と組織の強化に全力を傾けて活躍してまいりました。それと同時に決議達成に結集して来た訳でありますが、短期間での組織作りは困難を極め、僻地にある方や個人病院で働く方々は中々理解してもらえず、オルグの方々の努力は誠に並大抵ではありませんでしたが、しかし熱意ある皆様方の奮闘でうはすべりとは言はれましても端まで浸透しつゝある様にあります。連盟は選挙の為に作られたものであると言う誤解や偏見に対しては、協会の持つ使命をうするならば、これは強力な圧団体を作らないで何処で何を解決することが出来るのでしょうか。強力な組織をもたなければ現在の情勢下に於ては社会活動をすることは、不可能とも言えます。このことは皆様はすでに御存知の筈であります。従って連盟は選挙の為でもなく、私達の利益の為ばかりのでもなく、幹部の団体でもないと言うことは、今回会員の方々や、看護士が一丸となって戦って来た事実が示すとうりりであります。それは私達のスローガンとする所の福祉文化国家を築くことに貢献することであり、看護の立場にある保健婦、助産婦、看護婦、准看護婦、看護士の社会的身分の安定、待遇の改善等、看護の業務の合理化をねらうのが目的であると信じます。連盟の持つ責任をよく理解なさいまして此の度見せた会員一人一人の一致協力、この体制を崩すことなく、今後の問題の解決のために研鑽なさることを請い願うのであります。とにかくこの勝利と栄光を信じて戦って来た保健婦、助産婦、看護婦准看護婦、看護士の一人一人の熱意は、政治の上に大きな意義を見出したことを心にしっかりと刻み、日本看護連盟宮城支部を、真の民主的な団体として運営するために先輩諸姉の御協力と、若い方々の健設的なる活発な御意見や、末端の切実な声を反映させて、又会員相互の親睦をはかり個々の人格を尊重して専門職業人としての組織団体を作り上げていきたいと思います。看護史上の歴史の一ページを飾った戦いはこれで終ったのではなく、こゝからが出発点とも言えます。今後の進むべき方向と、政策にこの盛り上った力を集結してゆかなければなりません。会員の皆様、林塩氏を国会に送るに当り一般社会の方々、奨める人には勿論のこと、私達を圧倒的に御支援下さいましたことはより私達の職業を理解して頂いたからだと信じます。それも人知れず皆様が、御苦労なさいまして一般市民に訴えた努力の賜でありますが、この声援に答えて視野を広げて他団体との交流をはかり、中にある医療問題を打破するために、世間一般の方々に訴えて行く覚悟で尚一層の努力をして行くつもりであります。公示期間中は、私支部長として会員一人一人の労をおしはかる時、ただ勝たねばとひたすら万進してまいりました。特に地区に派遣された方、或は馳せ参じて、はげまして下さいました多くの支持者、地区にありまして中心となって活躍なされました諸姉に紙上を持ちまして心から厚くその労をねぎらいたいと思います。大局に当って正々堂々と戦い、見事に栄光を勝ちとった支部会員の皆様誠にお目出度うございます。責任者としてこの重職を全うさせて頂きました私はたゞ感謝と感激を持ちまして厚く厚く御礼申し上げます。今後共何卒尚一層の御協力と御指導をお願い致しまして御挨拶に代える次第でございます。

連盟支部長

盛り上った組織の下に

日本看護協会宮城県支部長　駒板みのる

林塩　当選万才〳〵の声は小さな事務所をゆるがすばかりになりひびきました。嬉しさにとめどなく涙を流す会員抱き合って喜ぶ会員皆々、この日を期して、も〳〵と困難な事態をふみこえながら血と汗を流し戦って来たのでございますが、この努力が実り私共ナースの力で五一万八千七百九十四票を獲得したのでございます。林会長は勿論全国の同僚は喜々としている事でしょう。今まで見せた事のないこの団結！やれば何でも出来ないことはない事を痛感致します。本当に皆さん御苦労様でございました。今年の第一の目的を達成した今日、残されている課題であります看護婦の不足、業務の確立、待遇改善等数々多くの問題が山積しているのでございますにも、これらの問題を解決するためにも、この盛り上った組織の下に一人一人が看護協会員であることを自覚し誇りと情熱をもって一層の努力を致そうではありませんか。

×　×　×　×

よろこびの日に

日本看護協会保健婦会会長　金子光

[illegible]の全員選の状態ではないでせうか。

報道関係では、三年前の雪辱戦だと書いていましたが、私は、雪辱という気持ではなくて、勝利を得なくては看護の世界は今より、もっと悲惨な状態になるから、現在を最低の線にとゞめて、これより下っては絶対にいけない、だから是が非にでも、という気持だけでありました。

だれも、だれも、それぞれの立場で、これ以上は出来ない限界のギリギリまでやった、限界をこした場合も少くないかもしれない、[illegible]役、火の玉となって、ぶつかった結果の大勝利だから、何よりも何よりもうれしい。

今回の活動を通じて私に勉強しました。ナースは弱い弱いと人にもいわれ、自分達もまたそんなつもりでいたかもしれませんが、固く手をつなぎ合い、団結して行動にうつせば、こんな大きな成果をあげることが出来るのだという事実を体験したことです。やればできる力は潜在していることを自覚しました。

そして心の底から湧きあがるよろこびは、私共の社会を、明い健康な社会にしたい、弱い者や、苦しんでいる者に慰めを与へ、力を貸したいと考へている人達が五十一万余りあるという事。陽のあたらない保健衛生の仕事に、一条の光がさしはじめてきたいという希望が、着々と実現していくであろうということです。

しかし、これからが大変、林先生に背負っていただく荷物が重ければ重い程、私達会員はそれを後から支えなくては、いけない。先生がその荷物を一つ一つおろしてゆかれる可能性は一つに会員の今后の支援によるものです。本当の戦いはこれからなのです、お互い一層頑張ってはげみませう

秒針

小さな力の結集が今一人の議員を国会に送り出し当選の喜びを静かに味うと共に今後の歩みを考えていることだろう。

想えば「病院スト」が遼原の火の様に広がり出したのは、二年前であった。

それをきっかけに〝病院〟と云う組織にメスが入れられ、医療行政看護制度のあり方がぞくぞくと問題化され、看護力看護婦不足は一般国民の要望と迄なりつつある。

その間私達の動きは、社会情勢の変動医学の目覚しい発達に順じて、看護研究、組合活動、政治的開眼にと、驚異的な躍進振りを示して来た。

戦後医療制度公衆衛生等の問題が改善されたが、再算制問題がとり上げられ始めたとたんに低医療政策にかえられ、それが尾をひき、政府、厚生省が医師会と、診療単価の泥沼交渉を続け看護の問題に何らの対策を考えなかった為、現状に追い込んだ厚生省、政府の態度は大きな問題である。

新しい内閣改造が行なわれ相当なる期待を寄せはしたものの、党内ポストのたらいまわしにすぎない状態である。公務員給与引き上げ七、九%にとどめたり「レジャーブーム」「所得倍増」の計画でつてインフレを若くさせる懸念さえうかがえる。

繁雑した政界で私達の代表が、ナースの問題を一番最初にとり上げていただきたいが、一つの事にとらわれず、代議士として深層にある弊害をよく見つめて巾の広い人になっていただきたいと思う、一年議員を送り出した私達も自信を持って発言出来る様、常に影ながらの支援と研究心をおこたらず一層の努力をすべきである。それと同時に、医療界のみならず一般国民に対してのナースの地位を高め看護職へと進んで行くべきである。

おわび

前回のニュースで、連盟支部長の氏名を落しましたので、あらためておわび労々ご紹介申し上げます。

久光なみ子

宮城県得票数

市郡別（宮城県）中央選挙管理会調

仙台市	5239	刈田郡	143	志田郡	159
石巻市	1169	柴田郡	452	玉造郡	344
塩釜市	534	伊具郡	312	遠田郡	411
古川市	539	亘理郡	285	栗原郡	1048
気仙沼市	701	名取郡	212	登米郡	733
白石市	623	宮城郡	675	桃生郡	904
名取市	465	黒川郡	223	牡鹿郡	298
角田市	253	加美郡	179	本吉郡	464
	9525			合計	16420票

疲労・神経痛・筋肉痛・便秘に
早く強いききめ！
●無臭・持続性の新活性型ビタミン
ビオタミン
SANKYO 三共
三共株式会社
吸収がよく、すぐに生理作用に有効な型となり、強い力を発揮します。のむ時、ものんだ後でもいやなニオイはありません。
（5mg錠・25mg錠）各30入 100入 300入 他に散

武田の医薬品　健保適用
武田のチオクト酸製剤
各種肝疾患の予防と治療，妊娠悪阻，各種皮膚疾患，動脈硬化症及び過コレステロール血症の予防と治療，神経障害など
リポイシン（散・注）はビタミンB群に属する新しいビタミン α・リポ酸（チオクト酸）の製剤で、数々の優れた作用を有し各科領域で広く使用されています。
リポイシン散・注「タケダ」
散剤 3% 100g 500g 10% 25g 100g
注射液 2cc(10mg) 5cc(25mg) 各 10・50・200管
(R54)
大阪市東区道修町　武田薬品工業株式会社

第4代　支部長　**髙橋　千代子**
（昭和55年～昭和59年）

直ぐ春の足音が聞こえてくるころになって参りました。昨年は未曾有の自然災害に見舞われたこと、心を砕かれたことと、御推察申し上げます。

宮城県看護連盟創立50周年を迎えられたこと、心よりお祝いとお喜びを申し上げます。

原稿の依頼にとまどいを感じました。あの時代の看護連盟宮城県支部のありかたを、私自身がほとんど知らずにいたことを深く反省致しており、記念誌に投稿できるか迷いと恥ずかしい思いで一杯です。

私が支部長をお引き受けした当時は、日本看護協会宮城県支部との関係も薄く、連盟活動も他力本願でした。日本看護協会が推薦する参議院議員候補者の選挙運動が、最大の目標だったように記憶しています。当時の運動は後援会の方々が主体になっておりました。看護連盟支部の運動は脇役のような存在でした。

当時は支部規約もなく、支部総会も十数年間も開かれず、年会費も会員一人百円でした。支部規約を手探りで作成してその案を持って、支部総会を開催致しました。その結論は、支部規約案と会費の値上げを承認していただき活動を始めることができました。その陰には齋田トキ子先生と当時の看護協会宮城県支部の細谷支部長様のご配慮による資金面でのご援助をいただき、連盟支部は呼吸ができるようになりました。

私たち役員は、連盟支部の役割を考えた時、会員の増加や選挙時の活動のあり方などどうすべきか定期役員会にて、役員会のあり方も含めた支部としての行うべき仕事などについて討議したことを遠く思い出します。

役員の一人からの選挙運営についての意見に、組織とは何かと考えさせられました。「選挙事務所を私たちで」とマンションの一室を借用して行いました。

今振り返ると、若かったとは言え、連盟ありようも知らぬまま、支部長を務めてきたことに反省の思いを禁じ得ません。

相変わらず、選挙運動は後援会の人々が主体で行っていました。

今は亡き県議会議員の須藤正夫先生と現県議会議員相沢光哉先生方による後援会から資金、人的支援のもとに運動して参りました。

看護連盟宮城県支部が今日まで成長と発展できたのも先生方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今後も看護職代表を国会に送り、国民の健康の担い手として、看護協会会員の教育、専門看護職の質の向上、社会のニーズに適した行動ができる看護職のために、看護連盟は、看護協会と役割分担と一体の活動ができること、互いに歩み続けることを信じて参りたいと思います。

現在の宮城県看護連盟のご活躍に本当に頭が下がります。ここまでよく頑張って下さいました。

本当にありがとうございます。

元役員　**鈴木　すい**
（昭和63年）

今から約50年前、昭和37年4月に私は某病院に就職しました。

今のような新人教育期間もなくすぐ実務です。夜勤は一人で深夜勤が一週間、準夜勤が一週間の連続勤務でした。

日本は、終戦から立ち上がり高度経済成長期で、病院の増床が盛んで看護師不足が深刻でした。

早く安く育成される准看護師の学校が多く作られたのも時代的背景があったからかも知れません。

開業医では、女中代わりに見習いと称して家事掃除をやらされ１～数年後に准看護師学校に通わせて資格を取らせる、安い給料で高い教養は必要ないと医師会では言われていました。汚い、きつい、厳しい等３Ｋと言われ、その割に安い給料で、ナイチンゲールをもじって「無賃（ナイチン）ガール」と呼んで各病院では度々ストライキを起こしていました。

看護師の代表を国会に送り意見を反映させる石本茂氏を参議院議員として送るため、皆が一丸となって応援し当選でき、喜んだことを懐かしく思い出します。

看護協会や連盟は総師長のもと、当然のように全員加入でした。ある意味看護師であれば当たり前なのだと思っている人が多く、異論を唱える人はほとんどいませんでした。切実に待遇改善やレベルアップを行ってほしいと願っていました。

無賃（ナイチン）ガールも田中角栄首相の時に大幅にアップされました。又、大学の設置や諸々の改革が少しずつ改善されたことは、国会に代表を送った大きな成果だと思います。

私は清水嘉与子氏の時役員となり微力ながら応援しました。会議は夕方から行われ、地方から出てくる人には帰りが遅くなるので配慮される面もありましたが、大変な中にも楽しい思い出でした。

看護連盟宮城県支部講習会
県政の課題

看護連盟宮城県支部講習会

石本環境庁長官就任祝賀会

護の代表「清水かよこ」を励ま

非常出口

元役員　曽根　喜代子
（昭和63年～平成元年）

宮城県看護連盟創立50周年おめでとうございます。

私が看護連盟に入会してから41年の歳月が経ちますが、看護連盟との関わりが長く深かったが故につい最近のような錯覚になります。

振り返れば、仙台厚生病院に入職し、当時、仙台厚生病院の看護職は看護連盟・看護協会セットでの入会で会費は給料から天引きされていた時代で、入会は当然のことと思っていました。

初代総婦長大堀マツ氏が退官され、2代目総婦長駒板みのる氏、3代目総婦長石坂カツエ氏に引き継がれ、時代も少しずつ変わり、私も看護協会の教育委員・推薦委員・広報委員等の役員を経験させていただき、職場のみならず宮城県の看護職全体に向けて発信する、看護職の組織の偉大さに心打たれ活動させていただきました。

そして、看護協会の活動後、看護連盟の役員に推薦されました。

30年位前の宮城県看護連盟は宮城県看護協会会館に事務局があり、協会と連盟の事務局は机を並べ、事務局担当者小笠原ツネ氏が宮城県看護協会と宮城県看護連盟のパイプ役を担い運営されていました。

連盟の組織は藤島キシ会長を柱に宮城県看護連盟に入会している施設から役員1名を任命し、10名程の役員が月1回看護連盟役員会として日本看護協会のスローガンに基づき国政に看護職を送り込むための戦略会議を行いました。

看護協会と看護連盟は表裏一体となり、看護職の地位の向上を図ることを目指し、看護連盟会員獲得のために仙台市のみならず、石巻市、志津川町、鳴子町、栗原などの病院まで、夫に運転を依頼し勧誘に出掛けたり、看護職のため看護連盟活動に没頭しました。活動を行う上でも色々な摩擦、困難があり私自身も若かったために看護協会長や加藤はま子氏に談判したこともありましたが、戦略が達成できたときは役員皆で喜び合いました。

宮城県看護協会と宮城県看護連盟が共に手を携えて看護職の発展のために、若い世代が活動しやすい組織作りができることを願っています。

（西仙台病院）

第６代支部長　**吉田　ますよ**
（昭和63年～平成７年）

元役員　**平間　あき子**
（平成元年～平成２年、平成11年～平成18年）

宮城県看護連盟創立50周年記念おめでとうございます。

私が連盟と関わり始めたのは昭和61年からです。この時は看護協会の建物の中に看護連盟の事務所があり日本間で会議を開いていました。

当時、吉田支部長さんからいろいろなことを教えていただきました。連盟は協会と表裏一体であること、何故国会へ看護職代表を送らなければいけないか、自民党に何故入らなければならないか、党員・党友、政治など事細かく知ることができ勉強になりました。このような機会がなかったら知ることはなかったと思います。

この頃は連盟会員（900人台）が増えなく看護協会員との比率が開くばかりで、この時の支部長さんは全国支部長会議に出席するのが辛かったようでした。どのようにしたら会員を増やせるかを検討した結果、グループで各病院の看護部長さんにお願いをすることになり、私はもう一人の方と宮城野区の病院、鳴子方面の病院を訪問しました。若かったのでどきどきしながらお願いしてきたことが思い出されます。今であれば経験も積んだので説得する自信はあるのですが・・・。

３年の任務が終わり蔭ながら応援をしていました。吉田支部長さん、千葉支部長さん、そして山下支部長さんに代わられてから、又、役員として関わらせていただきました。山下支部長さんを中心に連盟は明るく楽しいところに変わりました。

清水嘉与子先生、南野知恵子先生が来仙する時は、サプライズを何度となく実行し、先生方に仙台を印象付けたものでした。私自身この時は連盟活動が楽しくやりがい感があり充実していました。

一緒に活動した連盟仲間に感謝いたします。ありがとうございました。

看護連盟の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

元役員　鈴木　光子
（平成2年～平成5年）

宮城県看護連盟創立50周年おめでとうございます。

私自身もこの歴史の中に加えて頂けたことはとても光栄と感じております。看護協会の一員としこの看護連盟の活動に対して諸先輩方がたのご理解とご協力、そして一丸となり役員会を盛り上げてこれたことが今さらながら感謝の思いと共に懐かしさがこみあげてきます。

「看護連盟です!!」と行く先々での挨拶が握手を交わしての議員の先生方との出会いです。看護協会の会員数とは違い連盟会員数、何で看護協会との表裏一体と言われているにも関わらず少ないんだろうと思っていました。政治、自民党という事だけで協会とは全く別物という言葉と態度を何度受けたでしょうか？こんなんじゃ何も変わることなど難しい、私たちに何が出来るの？どうすればいいの？とにかく足を運ぶことしかない!!と言い聞かせ役員会を盛り上げて行った頃が今にして懐かしいです。

日本看護連盟の総会、宮城県看護連盟の総会や各研修会には仲よし役員がいつも一緒でした。吉田支部長さんはあの小さな体なのにどこからパワーが出てくるのかといつも不思議でした。平成2年から4年間だけの役員でしたが沢山の方々から様々な事を学ばせて頂きました。

看護協会の発展は看護連盟が必須!!の時代に無関心な看護の仲間を見るととても不思議に思えるのは私だけでしょうか？看護の質を上げよう・高めようとスローガン的目標を上げても何も変えることは出来ないと痛感しています。役員の経験をさせていただけたことに改めて感謝です。

これからも微力ながら会員の一人として活動をし続けたいと思っております。

改めまして創立50周年おめでとうございます。

（東北公済病院宮城野分院）

元役員　**川村　啓子**
（平成7年～平成10年・平成18年～平成19年）

私と看護連盟の関わりは、平成6年頃からと記憶しています。それ以前は、一会員として総会に参加するというものでした。その頃は、現在のような支部はなく、宮城県看護連盟として県内全域を統括した組織での活動でした。私は、前任から会計担当を引き受けることになりました。最初は、知識がないためか事の重大さに気づかないでおりましたが、日々、連盟の仕事を行っている内に大変重要な役割だということを痛感致しました。

このような私に、様々なことをご指導下さったのは、当時、宮城県看護連盟の会長をしておられた吉田ますよ様です。感謝しております。吉田様は宮城県出身の議員方との人脈も厚く、信頼を得ておられ多方面にわたり活動されておりました。大変なこともありましたが、楽しく仕事をさせていただいたことに感謝しております。

その後、一時、役割りから遠ざかりましたが、宮城県内でも連盟の支部を発足させる動きが出てきました。仙台赤十字病院も支部を立ち上げることになり、初代の支部長が当時の大場美代子看護部長でした。私は、後を次ぎ二代目として二年間支部長を務めました。病院が支部になり活動がしやすくなり、横の連携もスムーズにとれるようになったと思います。

医療現場は高齢少子化の現代において、益々、看護の役割が大きくなっていると感じます。

宮城県看護連盟の益々のご発展を祈念致します。　（仙台赤十字病院）

元役員　**小関　悦子**
（平成8年～平成13年）

私は、昭和50年に入職時、齋田トキ子総看護師長から「連盟とは」について熱く話されたことを覚えています。新人だった私は、引き込まれるように入会しました。

当初は、助産師業務に過ぎていき精一杯でした。看護界のさまざまな問題・変化等理解するにはまだまだ未知の世界でもありました。入職して5～6年の月日が経過したころに看護連盟の役員を勧められました。

吉田ますよ支部長の指揮のもと諸先輩の指導を受けながら現実起こっている「看護の諸問題」を受け入れました。

連盟本部総会では、事前に国会議事堂の見学や自民党本部にある宮城県の議員の方々との話し合いなどにも参加させていただきました。本部総会においては、全国の会員の熱気と若い世代が多く参加されていることを体感しました。

連盟会員数は、看護協会会員数との差がこの時代から大差あり、宮城県は最下位が続きました。要因として、連盟の説明や報告の場、会員の確保などが考えられます。事前に看護学生への連盟・協会の導入、施設での事前オリエンテーションなどを勧めていくことも必要と思います。そのためにも環境作りが必須です。日本団体数の中で看護の団体数として上位を示すこともあり、一致団結することで強力に何とか今後もこの歴史を絶やすことなく続けていかなくてはなりません。又、国政に看護の代表者を送りだすことが私たちの使命と感じています。

今後も看護連盟の発展をお祈り致します。　（東北公済病院）